

令和5(2023)年度  
授業評価アンケート

◆ 1年次前期

1年次前期に実施した全科目の授業について、アンケート集計結果より12項目の全体平均は、4点満点中3.5点であった。

最も高い評価項目は、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」であり、3.7点であった。最も低い評価項目は、3.4点台の3項目あった。その項目は、「⑧到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」、「⑬この授業のわからないことを質問する機会が十分にあったと思いますか」、「⑩この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が30分未満34.7%、30分以上60分未満21.2%、60分以上90分（120分）未満24.6%、90分（120分）以上19.5%であった。共通科目は、30分未満33.3%、30分以上60分未満24.9%、60分以上90分（120分）未満17.9%、90分（120）以上23.9%であった。伸展科目は、30分未満41.7%、30分以上60分未満32.8%、60分以上90分（120分）未満12.5%、90分（120分）以上12.9%であった。

授業評価アンケート項目の全体平均値より、前期授業については12項目中6項目が平均値を上回っており、5項目が平均値であることから、概ね満足したものと評価できる。同時に、学生が積極的に授業に参加したこともわかった。しかし、評定値がやや低くなっていた2項目から、到達目標に十分達していないと感じる学生や学習内容の難しさを感じている学生がいることが推察された。

以上の結果を踏まえ、各教員からの改善策をもとに、改善事項をまとめた。⑧に対しては、毎時間、シラバスから本時の目標や到達目標を知らせ、学ぶ内容の意識づけを行い、目標をもって授業に積極的に取り組めるようにする、学生が取り組んだ成果を発表するなどの場面においては、学生の良かった点を認め、自信を持てるように助言をするなど、教員の対応の仕方や、学生自身が到達目標に対し達成感が味わえるような言葉かけを工夫するなどがあげられた。

⑬に対しては、授業中だけでは十分理解できていない学生を対象とした補習授業を設け、質問なども十分できるようにする、教員への質問、教員と学生で議論したりする時間を設けるようにする、質問時間を授業の合間に設ける、授業シートを配布して、授業内容のまとめや疑問、感想や質問などに対応する、個々の学生の質問にも細やかに対応するなど、教員側が質問しやすい雰囲気を作り、環境を準備することがあげられた。

⑩に対しては、授業中だけでは十分理解できていない学生を対象とした補習授業を設ける、授業中に配布する資料や説明をする言葉も、学生にとって馴染みやすい言葉を用いて表現する、授業で使用するテキストを検討する、「難しかった」と捉えた授業内容については、取り上げる事例などを再検討し、学生にとって理解できるように教授する方法を考える学生が到達目標に達するためには、技術や技能が上達しなければならない科目もあり、学生が意欲的に取り組んで達成できるだけの時間を十分に確保できるようにする、授業中に学生の中を回り、声をかけたりしながら、一人ひとりの学生と向き合う環境を作るなどがあげられた。

②においては、シラバスに予習と復習欄を設け、学生が事前に確認できるように示している。また、授業の開始時にシラバスの内容を説明し、予習と復習についても説明を加えているが、科目数が多いこともあり、学生は、求められている科目に対しては、授業後にノートを整理し、宿題となれば予習をして準備するといった程度である。シラバス上でも、学生の負担にならない程度の予習と復習を提示している科目が多く見られた。

今回の改善策からは、予習・復習への促しが弱点になっていることに着目し、次年度の改善点を捉えた、次回の授業内容を知らせ、調べ学習の課題を予習とする、小テストを行うことで自学学習を進めやすいようにする、普段の生活の中で、様々なテーマについて予習ができるように事前に詳しく伝えておくなどがあげられた。

表1 幼保コース 1年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.63	3.57	3.50	3.49	3.48	3.46	3.42	3.43	3.30	3.44	3.37	3.46	3.5
共通科目	3.73	3.64	3.67	3.64	3.71	3.71	3.55	3.55	3.45	3.68	3.67	3.47	3.6
伸展科目	3.68	3.57	3.60	3.54	3.58	3.56	3.43	3.57	3.42	3.52	3.53	3.46	3.5
全体平均	<b>3.7</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.4</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>

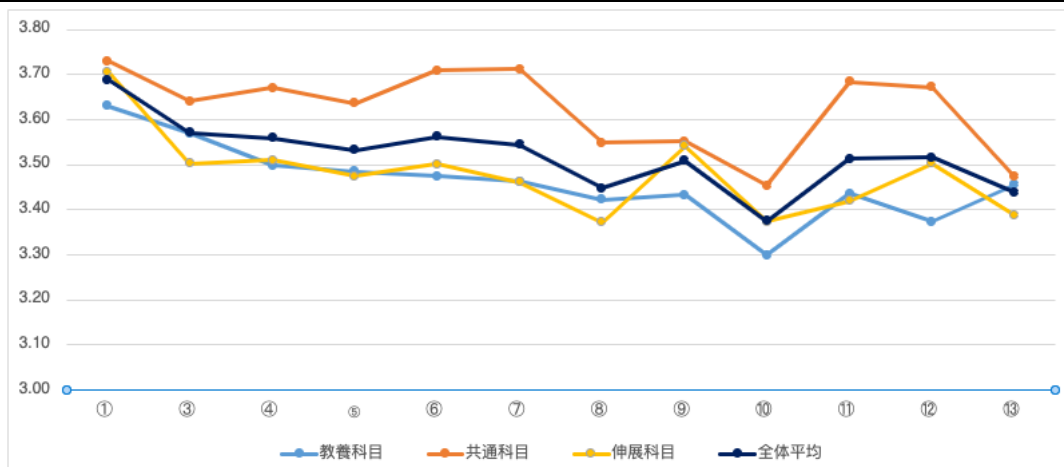


図1 幼保コース 1年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】

表2 1年次前期 時間外学習集計結果【全体】

②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	2.19	2.24	1.98
幼稚園	2.19	2.24	1.95
養護	2.19	2.09	2.38
小学校	2.19	2.16	2.58
全体平均	<b>2.19</b>	<b>2.18</b>	<b>2.22</b>

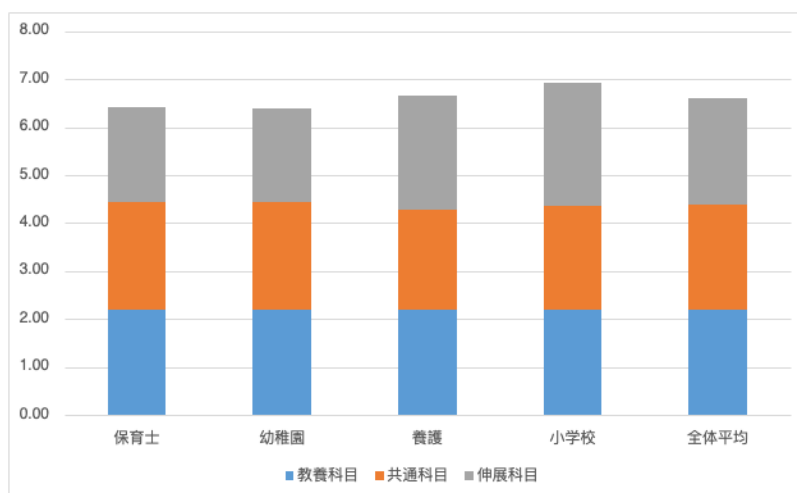


図2 1年次前期 時間外学習集計結果【全体】

## ◆1 年次後期

授業評価アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.5 点であった。最も高い評価項目は、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」、「③この授業にどのくらい主体的・積極的に取り組むことができましたか」、「④この授業で学ぶ内容の意義や必要性を十分に理解できましたか」、「⑨授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」であり、3.6 点であった。

最も低い評価項目は、「⑫教科書や補助教材、板書、ICT 機器等が内容を理解することに役立ったと思いますか」と、「⑬この授業のわからないことを質問する機会が十分にあったと思いますか」であり、次に「⑩教員の説明が、わかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか？」であり 3.4 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が 30 分未満 50.0%、30 分以上 60 分未満 27.2%、60 分以上 90 分（120 分）未満 11.1%、90 分（120 分）以上 11.7%であった。共通科目は、30 分未満 51.4%、30 分以上 60 分未満 17.4%、60 分以上 90 分（120 分）未満 8.0%、90 分（120 分）以上 23.2%であった。伸展科目は、30 分未満 51.54%、30 分以上 60 分未満 22.2%、60 分以上 90 分（120 分）未満 16.6%、90 分（120 分）以上 8.3%であった。

高い評価項目の①は学生の学習行動、③は授業内のアクティブ・ラーニングの実態、④は教育の質保証の項目となるが、本人の意欲の表れが確認できる数値であると考えられる。

学生が積極的に授業に参加し、授業内容の理解が得られた回答結果から、ほとんどの学生が授業に満足しており、各教員の授業展開が円滑に実施できていたことによって、教育の質保証が学習に連結させることができた点が認識できる。今後も各教員が十分にシラバス内容吟味し、学生の満足度が高い授業が継続されることに期待したい。

⑨については、1 年次後期開講授業ということもあり、前期授業での大学の講義・演習スタイルにも慣れたことが影響されていると考えられるが、多くの教員の講義ペースが適当であった点が、学生の授業に対する満足度の値に示された結果となったのではないかと。

次に結果を踏まえ、各教員からの改善策をもとに、改善事項をまとめた。低い評価項目の⑫についての改善策としては、教材を吟味し、提示していけるように準備する、スライドとビデオを利用しているが活用について再検討する、資料についても毎年見直しを図る、学生が役立ったと思える活用の仕方をさらに工夫していくことが課題である意見が挙げられた。⑬については低い評価であったが、この項目は“アクティブ・ラーニング”や“教育の質保証”に関する領域に関係してくる評価になる。学生の納得度や自主的な学習行動を引出し、学習の達成感を感じさせるところまでは至っていなかったと考えられるため、今後の改善に向けた課題となる意見が挙げられた。授業には、新しい知識の獲得や発見に学生を導くような工夫や仕組みを作る、働きかけを意識し積極的な参加（自ら考えながらの受講）が求められる授業を行うことが、教育研究の質の担保につながると予測される。

②については、シラバスに予習と復習欄を設け、学生が事前に確認できるように示している。また、初回授業においては、シラバスの内容を説明し、予習と復習についても説明を加えているが、

開講期内だけでも他科目の履修が立て込んでいる。課題を求められている科目に対しては、授業後にノートやレポートを整理し課題を必ず提出しなければならないこともあり、復習については、決められていることは、きちんと自覚して取り組めると考えられるが、（授業前）の準備についても取り組みが学修に反映することを周知していく必要がある。

1 年次後期授業では、予習復習に関しての高評価が見られる科目もあった。ピアノの練習については、30 分以上の時間をピアノ学習に当てている学生が多いことがわかり、授業内だけでなく自習にも取り組んでいたことでピアノのスキルも上がり、到達目標の満足度の高さにも現れたことが確認できた。

一方、改善策からは、課題については、授業後半は指導案作成で時間外学習が増える等内容によって復習の時間が増える科目がある、アンケート結果から次回からは課題を増やしたい、授業で実践した内容をノートに記録しさらに教科書の関連事項に目を通しておくことを伝える、復習は毎時授業の実施内容や発表したものを丁寧に記録するように伝えていく、学習時間の少ない学生には復習の方法を具体的に伝える、練習の仕方や曲のポイントなど事前に伝えて意欲的に課題へ取り組めるようにしていく、日々の練習の大切さ具体的な練習の方法などを示すことで個人練習への不安を取り除くなどがあげられた。

表1 幼保コース 1年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.72	3.47	3.35	3.38	3.37	3.38	3.36	3.48	3.26	3.18	3.30	3.19	3.4
共通科目	3.30	3.66	3.71	3.64	3.65	3.66	3.59	3.77	3.76	3.68	3.51	3.67	3.6
伸展科目	3.65	3.59	3.62	3.57	3.65	3.58	3.47	3.53	3.46	3.50	3.51	3.49	3.5
全体平均	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.5

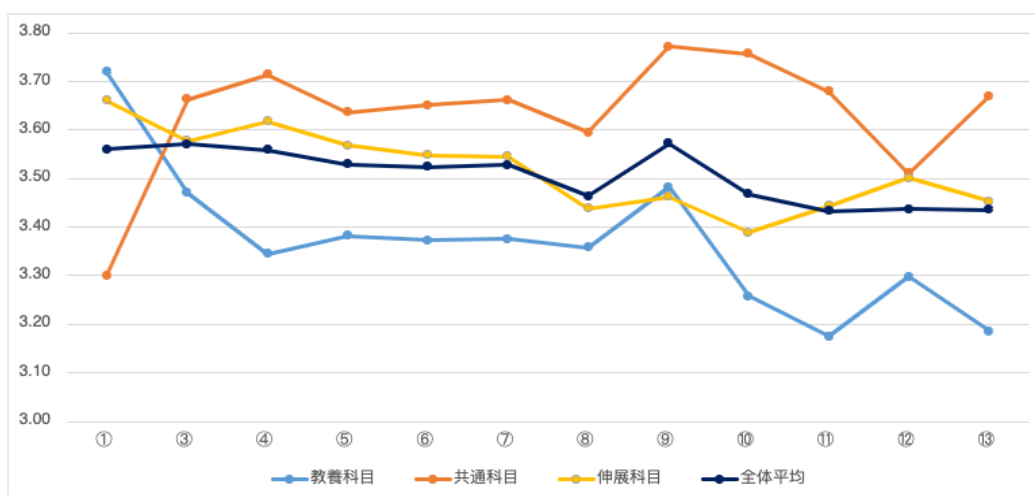


図1 幼保コース 1年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】

表2 1年次後期 時間外学習集計結果【全体】

②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	1.98	2.25	2.35
幼稚園	1.98	2.25	2.18
養護	1.98	1.86	2.31
小学校	1.98	2.25	2.05
全体平均	<b>1.98</b>	<b>2.15</b>	<b>2.22</b>

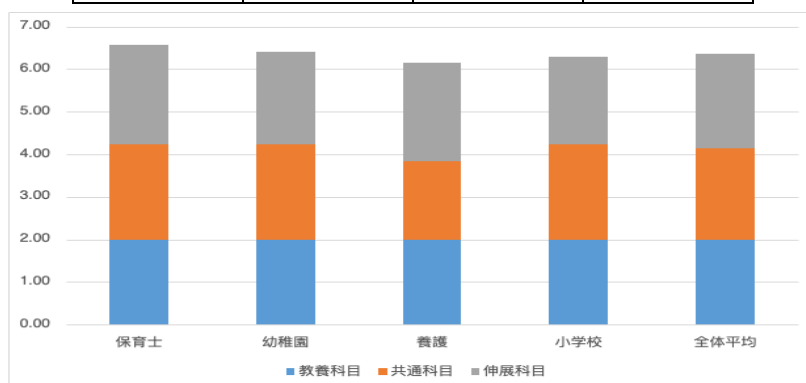


図2 1年次後期 時間外学習集計結果【全体】

## ◆ 2年次前期

授業評価アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.6 点であった。最も高い評価項目は、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」であり、3.7 点であった。最も低い評価項目は、「⑧到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」と、「⑬この授業のわからないことを質問する機会が十分にあったと思いますか」であり、3.4 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が 30 分未満 44.1%、30 分以上 60 分未満 33.1%、60 分以上 90 分（120 分）未満 16.1%、90 分（120 分）以上 6.8%であった。共通科目は、30 分未満 50.6%、30 分以上 60 分未満 30.5%、60 分以上 90 分（120 分）未満 14.9%、90 分（120 分）以上 3.9%であった。伸展科目は、30 分未満 51.5%、30 分以上 60 分未満 22.2%、60 分以上 90 分（120 分）未満 16.6%、90 分（120 分）以上 8.3%であった。

授業評価アンケート項目の全体平均値より、前期授業については 12 項目中 1 項目が平均値を上回り、5 項目が平均値であるが低い値についても大きく下回っていないため、概ね満足したものと評価できる。

学生が、積極的に授業に参加したことがわかったが、評定値がやや低くなっている点から、到達目標に十分達していないと感じる学生や、学習内容の難しさを感じている学生がいることが推察された。以上の結果を踏まえ、各教員からの改善策をもとに、改善事項をまとめた。

⑧に対しては、毎時間シラバスから本時の目標や到達目標を知らせる、学ぶ内容の意識づけを行う、学生自身が学びの満足感が得られるように働きかける、授業内容をまとめや疑問・感想・質問に対応できるような授業シートの活用を工夫する、学生自身が到達目標に対し達成感が味わえるようなフィードバックを工夫するなどがあげられた。各科目の知識獲得に向けては、授業内だけでは学習時間が十分ではない。復習や課題となる問題に丁寧に時間をかけて取り組まないと目標達成できないことについても、初回オリエンテーションでの告知が必要であろう。学生の到達目標達成の認識と、予習復習にあてた時間とが、ほぼ比例しているのもその結果であると推察する。

⑬に対しては、授業中だけでは十分理解できていない学生には、質問を十分できるように配慮したい、質問時間を授業の合間に設け他の受講生の思いも周知できるようにしたい、直接教員への言葉をかけにくい学生もいるため授業シートを配布し授業内容のまとめや疑問や感想や質問などに対応するなど、教員側から質問しやすいタイミングや環境作りがあげられた。

②においては、シラバスに予習と復習欄を設け、学生が事前に確認できるように示している。また、授業の開始時にシラバスの内容を説明し、予習と復習についても説明を加えているが、科目数が多いこともあり、学生は求められている科目に対しては授業後にノートを整理し、宿題となれば、予習をして準備するといった程度である。教員側も、学生の負担にならない程度の予習と復習を提示している科目が多く見られた。今回の改善策からは、次回の授業内容を知らせ調べ学習の課題を予習とする、自学学習を進めやすいようにするなどがあげられた。



表1 幼保コース 2年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.67	3.55	3.56	3.52	3.57	3.53	3.31	3.57	3.58	3.55	3.57	3.45	3.5
共通科目	3.60	3.46	3.59	3.50	3.51	3.52	3.38	3.62	3.50	3.56	3.52	3.38	3.5
伸展科目	3.83	3.66	3.69	3.62	3.54	3.53	3.48	3.73	3.64	3.65	3.54	3.52	3.6
全体平均	<b>3.7</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.4</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.6</b>

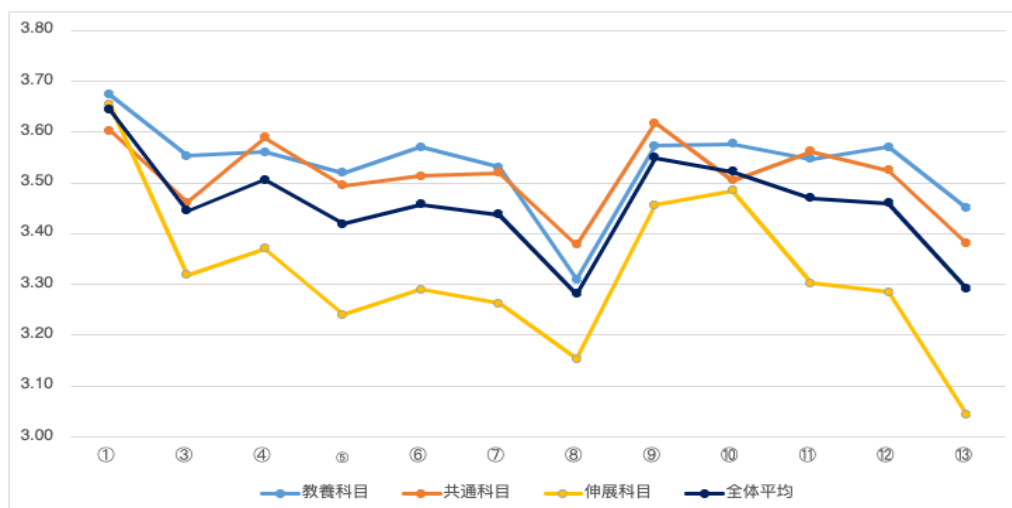


図1 幼保コース 2年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】

表2 2年次前期 時間外学習集計結果【全体】

②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	1.80	1.74	1.91
幼稚園	1.80	1.74	3.00
養護	1.80	1.67	1.83
小学校	1.80	2.39	1.93
全体平均	<b>1.80</b>	<b>1.89</b>	<b>2.17</b>

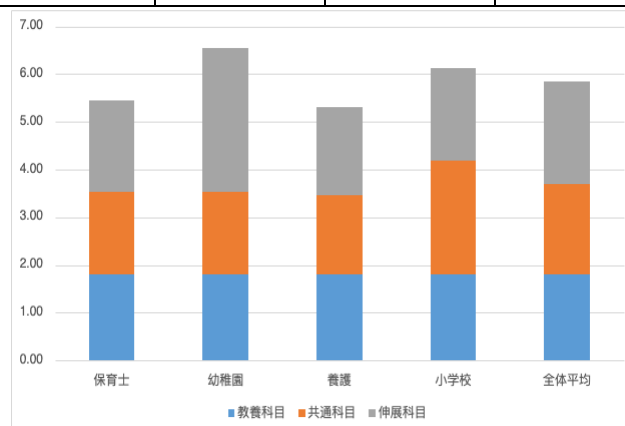


図2 2年次前期 時間外学習集計結果【全体】

## ◆ 2年次後期

授業評価アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.5 点であった。最も高い評価項目は、「③この授業にどのくらい主体的・積極的に取り組むことができましたか」、「④この授業で学ぶ内容の意識や必要性を十分に理解できましたか」と、「⑨授業のペースに追いつけないと感じることがどれくらいありましたか」と、「⑩この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」であり、3.6 点であった。最も低い評価項目は、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」と、「⑫教科書や補助教材、板書、ICT 機器等が内容を理解することに役に立ったと思いますか」であり、3.4 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が 30 分未満 62.1%、30 分以上 60 分未満 12.1%、60 分以上 90 分（120 分）未満 10.6%、90 分（120 分）以上 15.2%であった。共通科目は、30 分未満 48.7%、30 分以上 60 分未満 19.1%、60 分以上 90 分（120 分）未満 13.7%、90 分（120 分）以上 18.4%であった。伸展科目は、30 分未満 20.2%、30 分以上 60 分未満 23.9%、60 分以上 90 分（120 分）未満 14.4%、90 分（120 分）以上 13.5%であった。

授業評価アンケート項目の全体平均値より、後期授業については 12 項目中 4 項目が平均値を上回っており 6 項目が平均値であることから、満足度が高かったことが評価できる。

同時に、学生が積極的に授業に参加したことも明らかになった。しかし、評定値がやや低くなっていた 2 項目から、到達目標に十分達していないと感じる学生や学習内容の難しさを感じている学生がいることが推察される。

以上の結果を踏まえ、各教員からの改善策をもとに、改善事項をまとめた。①に対しては、2 年生は、後期授業期間で就職活動にて保育所や幼稚園などに訪問する学生も多く、欠席はある程度は仕方がないと考えられる。今後は、欠席する学生を増やさないよう指導していく必要がある。

⑫に対しては、各担当教員の授業方法は実に様々で、受講者側の意見や評価は、今後の授業改善に役立つ事案となるであろう。教科書や補助教材、板書、ICT 機器等の使用が内容を理解することに役に立ったことが、学生のコメント欄の意見として多数挙がっていた。とはいえ、平均値をやや下回ったことは、一定数は何らかの改善点を希望していることを示していると考えられる。次年度に向けて、学修環境を適切にするための教材準備や授業方法の検討につなげていきたい。

②においては、シラバスに予習と復習欄を設け、学生が事前に確認できるように示している。また、授業の開始時にシラバスの内容を説明し、予習と復習についても説明を加えているが、科目数が多いこともあり、学生は、求められている科目に対しては授業後にノートを整理し、宿題となれば、予習をして準備するといった程度である。シラバスにも、学生への負担感を与えない程度の予習と復習を提示している科目が多く見られた。

今回の改善策からは、意識づけができていなかった、もっと具体的に次回学習のために課題を出して授業で尋ねるようにしたい、次回の授業で課題チェックをする、もう少し課題内容に厚みをつけるべきか検討が必要、シラバスへ予習については具体的に表記していないため具体化が必要、授業で使用しているワークシートの記入は、自宅学習にも使用していく、授業時間以外に「子ども教育の方法と実践Ⅰ」「子ども教育の方法と実践Ⅱ」においては、放課後練習を行っており、予習・

復習と捉えにくかったのではないか、予習復習時間の捉え方について話をしていきたい、予習復習への意識の持たせ方だと反省する、授業前の材料等の準備や構想を練る、具体的な実施事項の事例を挙げた上で、アンケートの実施を依頼するなど、次回の授業改善につなげたい点が挙げられた。

表1 幼保コース 2年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.53	3.71	3.66	3.66	3.65	3.62	3.64	3.81	3.73	3.59	3.45	3.59	3.6
共通科目	3.34	3.61	3.60	3.55	3.56	3.56	3.52	3.65	3.65	3.57	3.49	3.55	3.6
伸展科目	3.46	3.42	3.49	3.39	3.40	3.39	3.31	3.47	3.43	3.34	3.35	3.26	3.4
全体平均	<b>3.4</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.5</b>	<b>3.4</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>

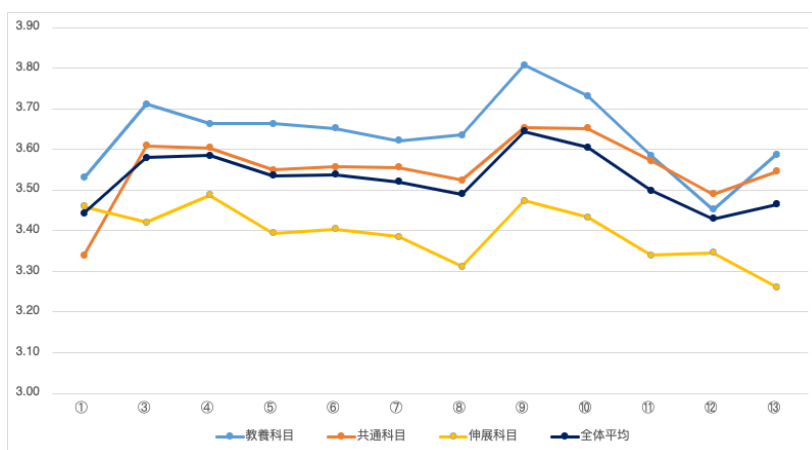


図1 幼保コース 2年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】

表2 2年次後期 時間外学習集計結果【全体】

②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	1.79	2.19	1.88
幼稚園	1.79	2.19	
養護	1.79	1.95	2.10
小学校	1.79	3.08	1.63
全体平均	<b>1.79</b>	<b>2.35</b>	<b>1.87</b>

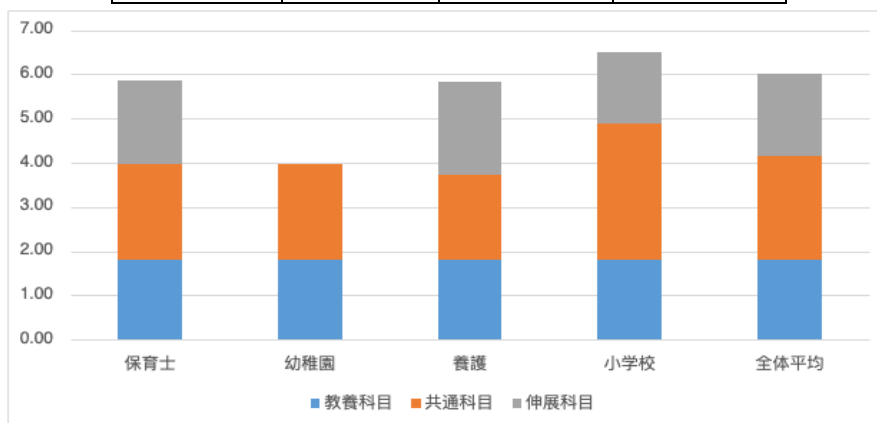


図2 2年次後期 時間外学習集計結果【全体】

## ◆ 1 年次前期

1 年次前期に実施した全科目の授業についてアンケートを集計した結果、②授業時間外の平均学習に関する項目を除く 12 項目の全体平均値は 3.5 点であった。教養科目、共通科目、伸展科目とも 3.5 点となり、良好な結果を得たと考える。

最も評価が高かったのは、①授業の出席率であり、学生が積極的に授業へ参加できたことがわかる。また、③授業への主体的・積極的に取り組むことができたか、④授業を学ぶ意義や必要性について十分に理解できたか、⑥この授業がシラバスに沿って進められたか、また、⑦シラバスに示された到達目標に達することを目指した授業内容であったか、という項目において 3.6 点と高い値を示していることから、教員は明確な到達目標をもって適切に授業を進めることができ、他方、学生も主体的に取り組むことができたものと推測される。

反対に、⑩この授業で学ぶ内容の難しさについては、3.2 点と今期の評価結果の中では最も低い値を示した。中でも、養護教諭の専門科目に匹敵する「伸展科目」の数値が顕著に低くなっている。入学後すぐに養護教諭の職務や看護学等の専門教科を学習していくが、各科目の授業評価アンケート内自由記述欄には、「専門用語が多く出てきて難しかった」等の意見が散見されたため、専門科目を担当する教員間で学生の理解をより助けるための工夫を考案したり、到達目標の設定や学習内容の見直しをしたりして共通理解を図り、次年度への改善へつなげていきたい。

また、⑧到達目標にどの程度到達できたか、⑨授業のペースに追いつけないことがあったか、⑬わからないことを質問する機会が十分にあったかという項目については、3.4 点と全体平均値を下回る結果となっている。大学に入学して初めて受講し、十分に質問する機会がなかった可能性は否めないが、全体的には問題のない結果であると評価している。

最後に、②授業時間外の平均学習についてであるが、「教養科目」については、1. 30 分未満 34.7%、2. 30 分以上 60 分未満 21.2%、3. 60 分以上 90 (120) 分未満 24.6%、4. 90 (120) 分以上 19.5%であった。「共通科目」では、1. 30 分未満 34.9%、2. 30 分以上 60 分未満 20.9%、3. 60 分以上 90 (120) 分未満 20.9%、4. 90 (120) 分以上 23.3%であった。「伸展科目」では、1. 30 分未満 20.7%、2. 30 分以上 60 分未満 36.6%、3. 60 分以上 90 (120) 分未満 28.6%、4. 90 (120) 分以上 14.1%となった。どの科目も満遍なく時間外学習をしているが、「伸展科目」に要する時間がやや多くなっていることがわかる。専門的な内容については授業内だけではなく、時間外に自発的に学習したり課題をしたりすることにより学生の理解度や意欲も高まると予測される。

表1 養護教諭免許状科目 1年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3	3.4	3.4	3.5	3.5
共通科目	3.7	3.5	3.6	3.5	3.6	3.6	3.4	3.5	3.3	3.6	3.6	3.4	3.5
伸展科目	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.4	3.3	3.1	3.6	3.6	3.3	3.5
全体平均	3.7	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.4	3.4	3.2	3.5	3.5	3.4	3.5

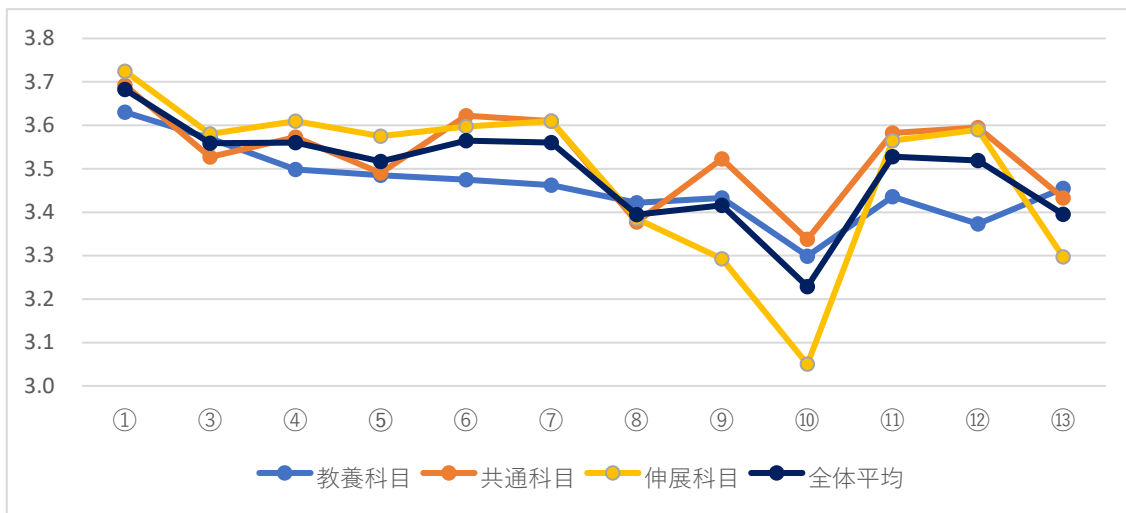


図1 養護教諭免許状科目 1年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】

表2 1年次前期 時間外学習集計結果【全体】

②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	2.19	2.24	1.98
幼稚園	2.19	2.24	1.95
養護	2.19	2.09	2.38
小学校	2.19	2.16	2.58
全体平均	<b>2.19</b>	<b>2.18</b>	<b>2.22</b>

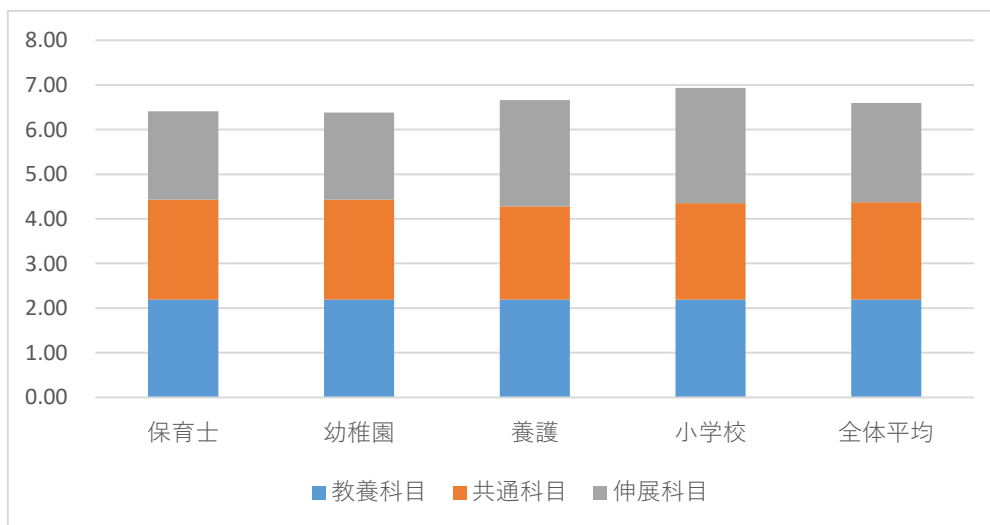


図2 1年次前期 時間外学習集計結果【全体】

## ◆ 1 年次後期

1 年次後期に実施した全科目の授業についてアンケートを集計した結果、②授業時間外の平均学習に関する項目を除く 12 項目の全体平均値は前期と同様に 3.5 点であった。「教養科目」3.4 点、「共通科目」3.6 点、「伸展科目」3.5 点と後期も良好な結果を得たと考えている。

最も評価が高かったのは、前期と同じく①授業の出席率であり、学生は 1 年を通して積極的に授業へ参加したことがわかる。また、③授業への主体的・積極的に取り組むことができたか、の値からも、授業に参加するだけでなく、主体的に学習へ臨んだことも伺える。さらに、⑨授業のペースに追いつけないことがあったかという質問については前期と比較して値が上昇している。このことから、前期に比べて大学生活に慣れ、学習に臨む態度や準備等、授業に余裕を持って参加できたのではないかと考える。

一方で、⑧到達目標にどの程度到達できたか、⑩この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じたか、⑪教員の説明がわかりやすく理解を深めることに役立ったか、⑬わからないことを質問する機会が十分にあったかという 4 項目については、3.4 点と全体平均値を下回る結果となっていた。詳細を見ると、「教養科目」において説明のわかりやすさや質問をする機会等、他に比較してやや低くなっていることが影響しているものと思われるが、全体的な傾向として、学生はその科目を学習する意義や必要性は感じているものの、各授業で設定されている到達目標に充分到達できていないと感じていると推測される。そのため、学生の自己評価や自己肯定感を高める手立てを工夫していく必要があると考える。

また、②授業時間外の平均学習についてであるが、「教養科目」については、1. 30 分未満 50.0%、2. 30 分以上 60 分未満 27.2%、3. 60 分以上 90 (120) 分未満 11.1%、4. 90 (120) 分以上 11.7%であった。「共通科目」では、1. 30 分未満 44.9%、2. 30 分以上 60 分未満 36.7%、3. 60 分以上 90 (120) 分未満 6.1%、4. 90 (120) 分以上 12.2%であった。「伸展科目」では、1. 30 分未満 25.5%、2. 30 分以上 60 分未満 36.9%、3. 60 分以上 90 (120) 分未満 23.6%、4. 90 (120) 分以上 14.0%となった。グラフからは、学生が前期に養護教諭の関連科目の時間外学習に幼稚園教諭・保育士科目と同程度の時間を時間外学習として充てていたものの、後期になると元来の目的である幼保科目に要する時間が多くなっていることがわかる。特に、保育士科目の時間外学習が多くなっていることから、学年末に実施される保育実習を前に学生の意欲等が高まっていることが伺える。養護教諭免許を有する保育者を養成する立場としては、望ましい結果であると認識している。

なお、文中の図表には示していないが、「独自科目」では、1. 30 分未満 27.3%、2. 30 分以上 60 分未満 32.7%、3. 60 分以上 90 (120) 分未満 21.8%、4. 90 (120) 分以上 18.2%という結果であった。

表3 養護教諭免許状科目 1年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.7	3.5	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.3	3.2	3.3	3.2	3.4
共通科目	3.9	3.8	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.6
伸展科目	3.8	3.5	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5
全体平均	<b>3.8</b>	<b>3.6</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.4</b>	<b>3.6</b>	<b>3.4</b>	<b>3.4</b>	<b>3.5</b>	<b>3.4</b>	<b>3.5</b>

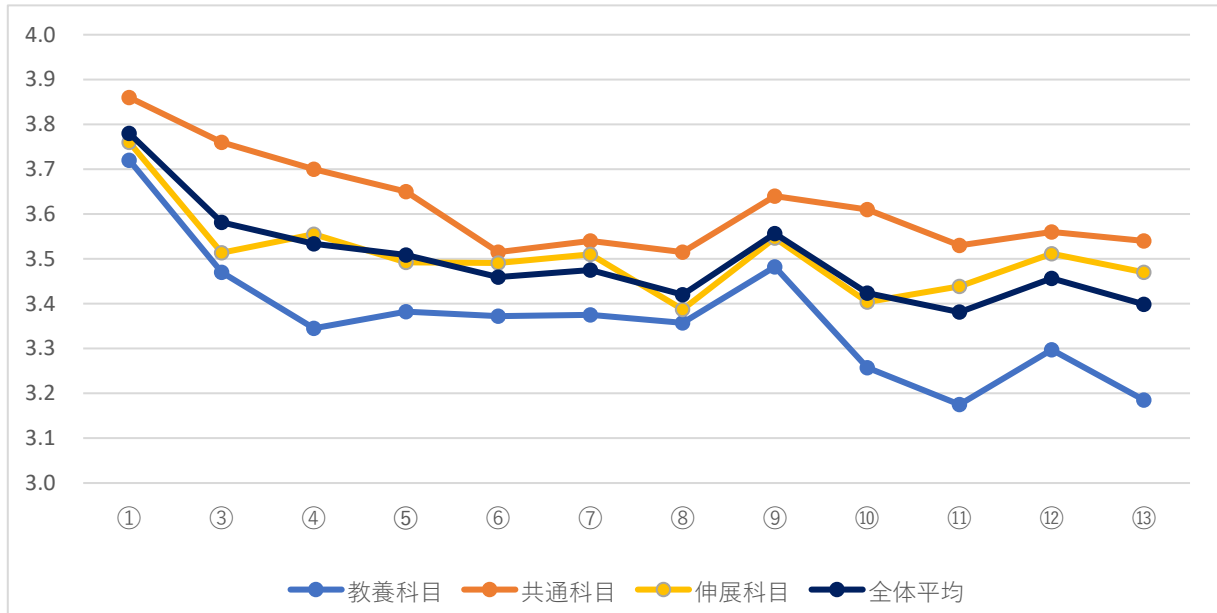


図3 養護教諭免許状科目 1年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】

表4 1年次後期 時間外学習集計結果【全体】

②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	1.98	2.25	2.35
幼稚園	1.98	2.25	2.18
養護	1.98	1.86	2.31
小学校	1.98	2.25	2.05
全体平均	<b>1.98</b>	<b>2.15</b>	<b>2.22</b>

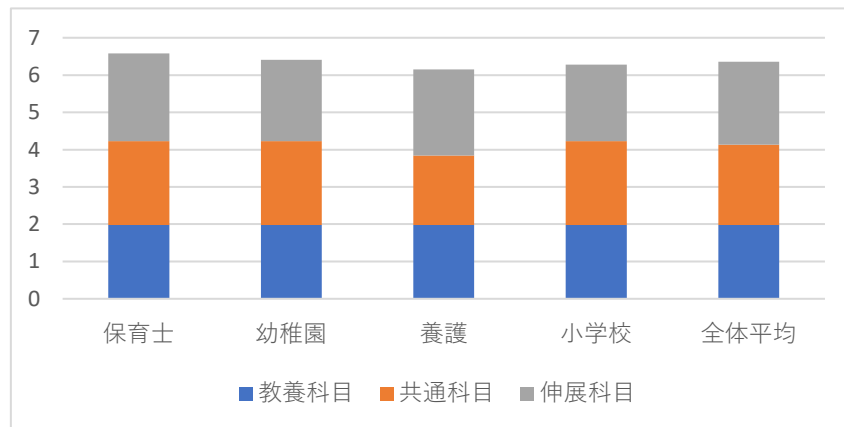


図4 1年次後期 時間外学習集計結果【全体】



## ◆ 2年次前期

2年次前期に実施した全科目の授業についてアンケートを集計した結果、②授業時間外の平均学習に関する項目を除く12項目の全体平均値は、3.4点であった。「教養科目」3.5点、「共通科目」3.4点、「伸展科目」3.3点と各科目で数値は異なるものの良好な結果を得たと考えている。

最も評価が高かったのは、1年次と変わらず①授業の出席率であった。また、④授業を学ぶ意義や必要性に対する理解に関する項目も高くなっていることから、保育者・養護教諭として学ぶべき内容の大切さを理解し、授業へ参加できているものとわかる。

反対に、⑧到達目標にどの程度到達できたか、及び⑬わからないことを質問する機会が十分にあったかという2項目については、1年次から引き続き全体平均値を下回る結果となっており、数値としては3.2点であった。⑬については、特に「伸展科目」で低くなっているが、これは80名程度の学生が受講している講義科目が複数あり、幼・保科目に多い、クラス単位での演習科目とは異なっていることから、大教場で100人近い学生が静かに受講している中で、質問等がしにくい可能性も否めない。大人数の講義でも質問しやすくする工夫やオフィスアワーの活用等、授業内外での質問の機会を設けて、学生の学びをより深める時間を確保することを視野に入れて授業改善を図りたい。

そして、②授業時間外の平均学習についてであるが、「教養科目」については、1. 30分未満 44.1%、2. 30分以上60分未満 33.1%、3. 60分以上90(120)分未満 16.1%、4. 90(120)分以上 6.8%であった。「共通科目」では、1. 30分未満 56.0%、2. 30分以上60分未満 28.0%、3. 60分以上90(120)分未満 12.0%、4. 90(120)分以上 4.0%であった。「伸展科目」では、1. 30分未満 34.8%、2. 30分以上60分未満 41.3%、3. 60分以上90(120)分未満 15.2%、4. 90(120)分以上 8.7%となった。

グラフからは、学生が幼稚園教諭に関する科目の時間外学習を多く充てていることがわかり、養護教諭免許を有する保育者を養成する立場としては、望ましい結果であると認識しているものの、養護実習を経験する時期でもあるため、こちらについては、科目に関連して専門科目に関する時間外学習をやや増加してほしい思いがある。

なお、文中の図表には示していないが、「独自科目」では、1. 30分未満 61.9%、2. 30分以上60分未満 21.2%、3. 60分以上90(120)分未満 11.9%、4. 90(120)分以上 5.1%であった。

表5 養護教諭免許状科目 2年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.7	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.3	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5
共通科目	3.7	3.4	3.5	3.4	3.5	3.5	3.2	3.6	3.4	3.5	3.5	3.2	3.4
伸展科目	3.6	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3	3.2	3.5	3.3	3.3	3.3	3.0	3.3
全体平均	3.7	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2	3.4

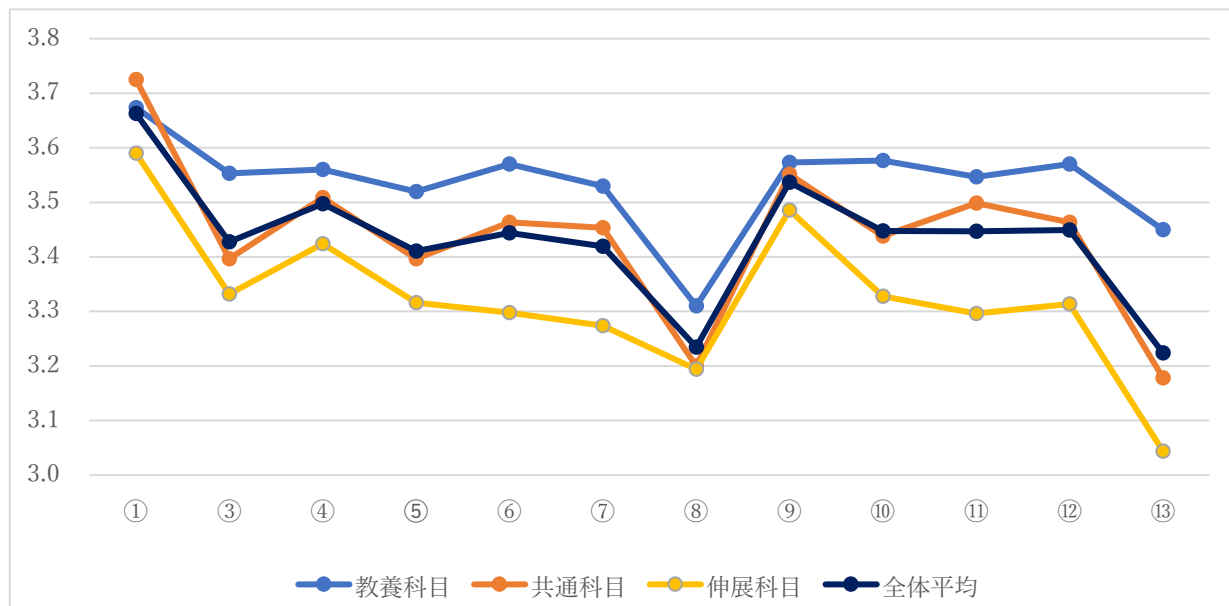


図5 養護教諭免許状科目 2年次前期 授業評価アンケート集計結果【全体】

表6 2年次前期 時間外学習集計結果【全体】

②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	1.80	1.74	1.91
幼稚園	1.80	1.74	3.00
養護	1.80	1.67	1.83
小学校	1.80	2.39	1.93
全体平均	<b>1.80</b>	<b>1.89</b>	<b>2.17</b>

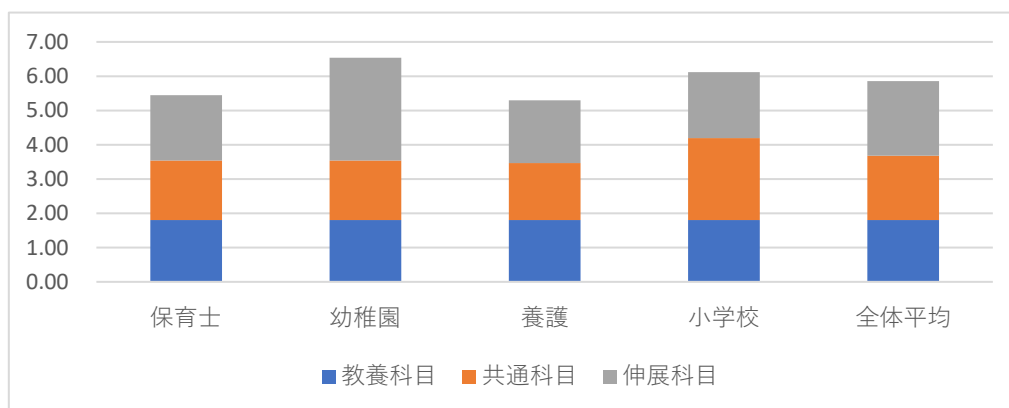


図6 2年次前期 時間外学習集計結果【全体】

## ◆ 2年次後期

2年次後期に実施した全科目の授業についてアンケートを集計した結果、②授業時間外の平均学習に関する項目を除く12項目の全体平均値は前期より若干増加して3.5点となった。「教養科目」3.6点、「共通科目」及び「伸展科目」は3.4点であり、良好な結果を得たと考えている。

最も評価が高かったのは、2学年通して①授業の出席率であり、出席に対しては学生が良好な状態であったことがわかるが、これまでに高い値を示していた③授業への積極的・主体的な参加、④この授業で学ぶ意義や必要性の理解がこの時期になって平均値と同等に減少していることが懸念される。

また、学生は1年を通して積極的に授業へ参加したことがわかる。また、③授業への主体的・積極的に取り組むことができたか、の値からも、授業に参加するだけでなく、主体的に学習へ臨んだことも伺える。ただし、「⑨授業のペースに追いつけないことがあったか」という質問については、1年次と比較すると2年次になってからはやや高い値を示しており、多くの科目を学ぶ学生にとって授業に追いつけないと感じることが少なかったのは唯一の救いであると考えられる。2年間に幼稚園教諭免許・保育士資格に加えて養護教諭免許の取得を取得することは、学生にとって多くの学びを得る一方で、負担感も大きかったように思われる。この経験や学びが現場で活かすことができるよう、授業担当者は授業内容を精査した上で、即戦力となる人材を育成する必要があると考える。

最後に、②授業時間外の平均学習についてであるが、「教養科目」については、1. 30分未満 62.1%、2. 30分以上60分未満 12.1%、3. 60分以上90(120)分未満 10.6%、4. 90(120)分以上 15.2%であった。「共通科目」では、1. 30分未満 44.9%、2. 30分以上60分未満 28.6%、3. 60分以上90(120)分未満 12.2%、4. 90(120)分以上 14.3%であった。

「伸展科目」では、1. 30分未満 52.4%、2. 30分以上60分未満 14.3%、3. 60分以上90(120)分未満 9.5%、4. 90(120)分以上 23.8%となった。グラフからは、学生が養護教諭の関連科目の時間外学習に幼稚園教諭・保育士科目と同程度の時間を時間外学習として充てていることがわかる。特に、「伸展科目」である専門科目の時間数が若干多くなっていることで、養護教諭としての専門性を高めるための授業内容であることを願うばかりである。保育士資格に関する科目も同等の時間を充てていることから、養護教諭免許を有する保育者を養成する立場としては、こちらも最終的に望ましい結果になったと認識している。

表7 養護教諭免許状科目 2年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.8	3.7	3.6	3.5	3.6	3.6
共通科目	3.5	3.4	3.5	3.4	3.6	3.4	3.3	3.6	3.2	3.4	3.5	3.4	3.4
伸展科目	4.0	3.4	3.4	3.3	3.2	3.2	3.2	3.5	3.3	3.3	3.2	3.1	3.4
全体平均	3.7	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.6	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5

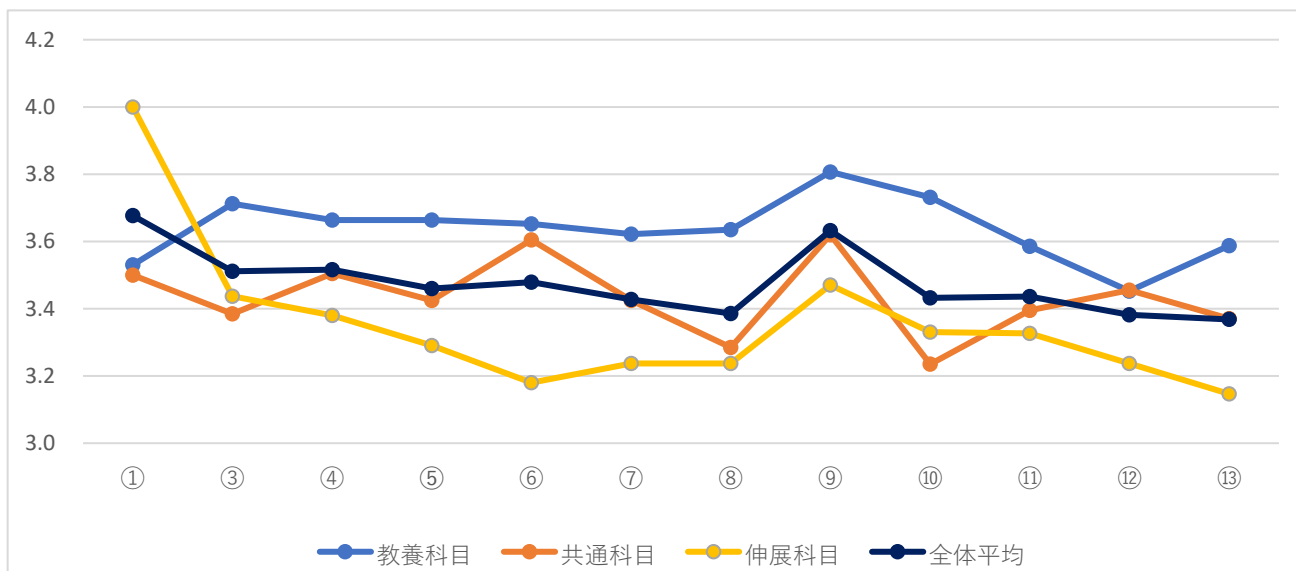


図7 養護教諭免許状科目 2年次後期 授業評価アンケート集計結果【全体】

表8 2年次前期 時間外学習集計結果【全体】

②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	1.79	2.19	1.88
幼稚園	1.79	2.19	
養護	1.79	1.95	2.10
小学校	1.79	3.08	1.63
全体平均	<b>1.79</b>	<b>2.35</b>	<b>1.87</b>

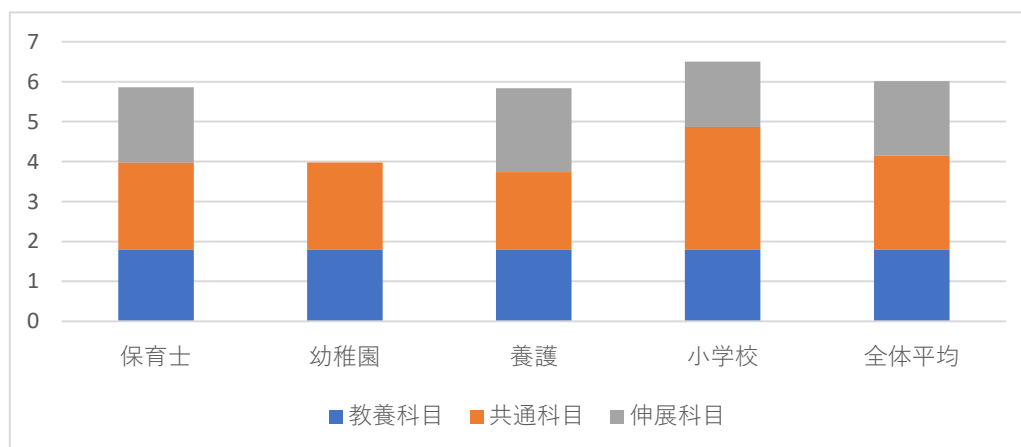


図8 2年次後期 時間外学習集計結果【全体】

## ◆ 1年次前期

アンケート集計結果より 13 項目の全体平均は、4 点満点中 3.4 点であった。

最も高い評価項目は、①「この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」であり、3.7 点である。次に⑥「この授業がシラバスに沿って進められていたと思いますか」3.6 点、⑦「実際の授業が、シラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」3.6 点であった。

最も評価が低い項目は、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」であり、3.1 点であった。その次に低かったのは、⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」であり、3.3 点であった。

その他の項目は、3.5 点が 3 項目、3.4 点が 5 項目であった。

また、②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が、30 分未満 34.7%、30 分以上 60 分未満 21.2%、60 分以上 90 分(120 分)未満 24.6%、90 分(120 分)以上 19.5%であった。共通科目は、30 分未満 35.7%、30 分以上 60 分未満 25.0%、60 分以上 90 分(120 分)未満 14.3%、90 分(120 分)以上 25.0%であった。小学校教科の伸展科目は、30 分未満 22.2%、30 分以上 60 分未満 27.8%、60 分以上 90 分(120 分)未満 27.8%、90 分(120 分)以上 22.2%であった。保育士、幼稚園、養護の各コースと比較すると最も授業時間外の学習の時間が多かった。特に、伸展科目の時間が 2.58 時間と多かった。

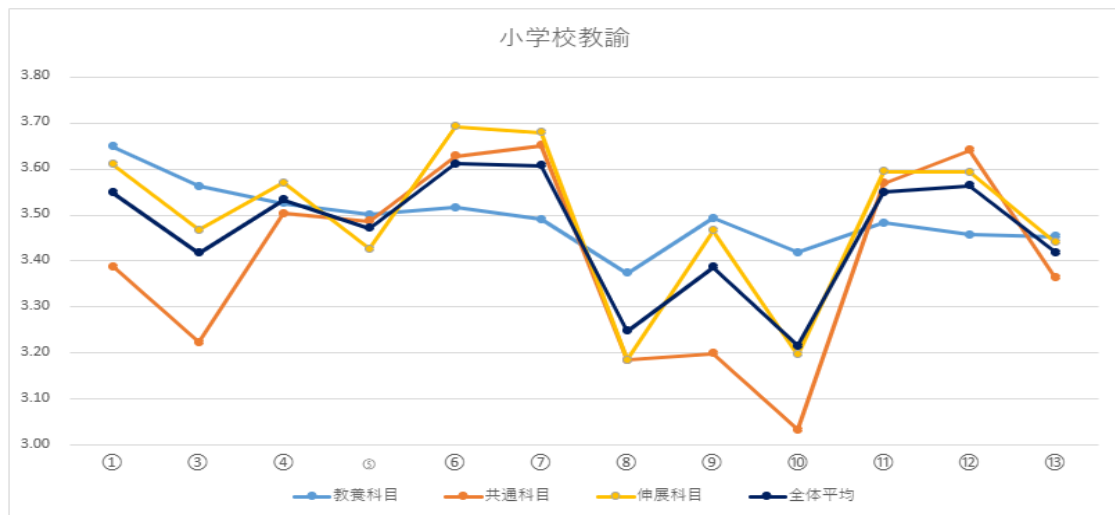
⑩については、授業内容が難しいと感じることがないように、前時授業の振り返りと本時授業に自己評価を取り入れることやスモールステップで個々の理解度を把握しながら授業を進めていくように努めることが大切である。学生が授業での理解が難しいと感じている実態があるので、授業の基礎的内容の吟味と学生の理解度をスモールステップで把握しながら、毎時間の授業内容を検討し、学生の側に立った授業の展開を検討し、分かりやすく理解できるように見直すことが必要である。また、アクティブラーニングで対話活動やグループワークや発表などを取り入れ、相互の考えの交流を通して、実践的な指導力が身につくようにしていく。

⑧については、学生にシラバスを意識させて、毎時間の授業の到達目標を学生に示し、達成できるようなワークシートや振り返りシートの活用を工夫するということが大切である。また、演習形式で、アクティブラーニングを意識させ、主体的で対話的な深い学びになるような KJ 法等の思考ツールを使用するなどのグループワークなどを取り入れて、学生にとって楽しい授業と感ずる授業を工夫する。

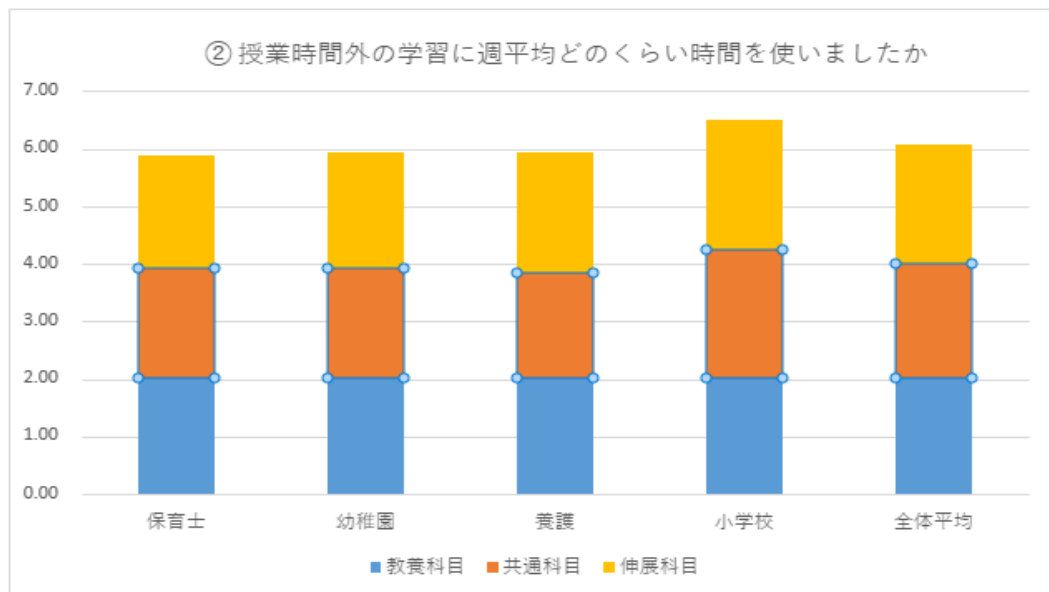
②については、各科目を受け持つ教員が、シラバスに記載している、予習・復習の内容を授業の中で具体的に学生に示していくことで、後期学修では、自ら進んで、予習・復習をすることができるようにしていく。

## 小学校コース 前期 授業評価アンケート集計結果（全体）

小学校	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.65	3.56	3.52	3.5	3.52	3.49	3.37	3.49	3.42	3.48	3.46	3.45	3.5
共通科目	3.39	3.22	3.5	3.49	3.63	3.65	3.18	3.2	3.03	3.57	3.64	3.36	3.4
伸展科目	3.61	3.47	3.57	3.43	3.69	3.68	3.19	3.47	3.2	3.6	3.59	3.44	3.5
全体平均	3.5	3.4	3.5	3.5	3.6	3.6	3.2	3.4	3.2	3.5	3.6	3.4	3.5



②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	2.02	1.91	1.96
幼稚園	2.02	1.91	1.99
養護	2.02	1.83	2.07
小学校	2.02	2.23	2.25
全体平均	2.02	1.97	2.07



## ◆ 1 年次後期

アンケート集計結果より 13 項目の全体平均は、4 点満点中 3.4 点であった。

最も高い評価項目は、に⑥「この授業がシラバスに沿って進められていたと思いますか」3.6 点、⑦「実際の授業が、シラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」3.6 点であった。

評価が低かったのは、⑨「授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」3.2 点、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」、3.2 点であった。その次に低かったのは、①「この授業にどのくらいの割合で出席しましたか。」3.3 点、⑪「教員の説明がわかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか」3.3 点であった。その他の項目は、3.5 点が 3 項目、3.4 点が、4 項目であった。

また、②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が、30 分未満 50.0%、30 分以上 60 分未満 27.2%、60 分以上 90 分(120 分)未満 11.1%、90 分(120 分)以上 11.7%であった。共通科目は、30 分未満 37.5%、30 分以上 60 分未満 25.0%、60 分以上 90 分(120 分)未満 12.5%、90 分(120 分)以上 25.0%であった。小学校教科の伸展科目(指導法)では、30 分未満 22.2%、30 分以上 60 分未満 33.3%、60 分以上 90 分(120 分)未満 11.1%、90 分(120 分)以上 33.3%であった。また、保育士、幼稚園、養護の各コースと比較すると全体平均程度である。

⑨「授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」3.2 点、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」3.2 点については、後期は、各教科等の指導法の科目が集中していて、パワーポイントによる発表資料作成、Word での指導案作成、模擬授業等の実践的な指導力を養成する科目のために、授業内容のレベルの高いと感じ、授業についていくことが難しいと感じている学生が存在する。しかしながら、レベルを落とすと学生の自己評価は高くなるが、小学校教育実習に行ったり、教職に就いたりしてから各教科等の指導法について、学生自身が高い壁を感じるようになるので、学生の理解を促す授業改善が急務である。学生の理解度をスモールステップで把握しながら、授業内容を検討し、アクティブラーニングで対話活動、ディベートやパネルディスカッション、KJ 法などの思考ツールを取り入れたグループワークなどを取り入れ、相互の考えの交流・共有を通して、学生の思考を引き出し、実践的な指導力が身につくようにするとともに、学生にとって楽しい授業と感じる授業の工夫を継続していくことが重要である。

アクティブラーニングの実現に向けては次の 3 つの視点で授業改善を行う。授業に見通しを持って粘り強く取り組み、学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」ができているかという視点、自己の考えを広め深める「対話的な学び」ができているかという視点、各教科等の特筆に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出だして解決策を考えさせたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現しているかという視点である。

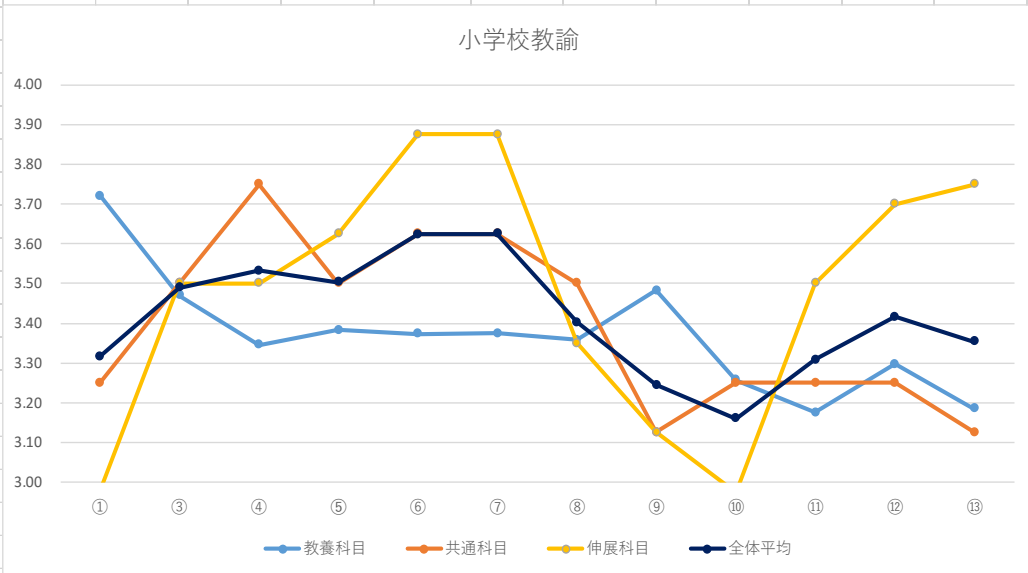
②については、前期同様低い自己評価である。しかしながら、伸展科目(指導法)では、30 分以上 60 分未満が前期 0%から後期 33.3%と増えている。これは、各科目を受け持つ教員が、シ

ラバスに記載している、予習・復習の内容を授業の中で具体的に学生に示していくことで、後期学修では、自ら進んで、予習・復習をすることができるように努めたことで一部の学生間では、改善しつつあることが分かる。このことが、全ての学生への改善となるよう、地道な取り組みが必要である。

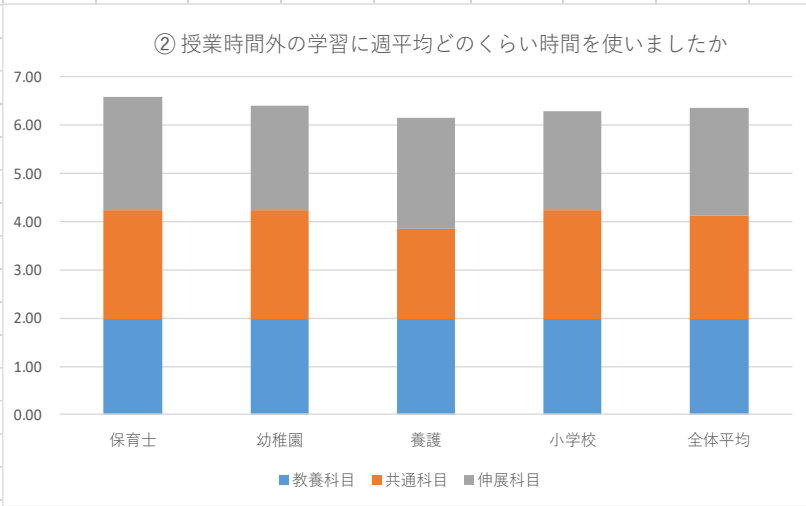


小学校コース 1年後期 授業評価アンケート集計結果（全体）

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.72	3.47	3.35	3.38	3.37	3.38	3.36	3.48	3.26	3.18	3.30	3.19	3.4
共通科目	3.25	3.50	3.75	3.50	3.63	3.63	3.50	3.13	3.25	3.25	3.25	3.13	3.4
伸展科目	2.98	3.50	3.50	3.63	3.88	3.88	3.35	3.13	2.98	3.50	3.70	3.75	3.5
全体平均	<b>3.3</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.5</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.4</b>	<b>3.2</b>	<b>3.2</b>	<b>3.3</b>	<b>3.4</b>	<b>3.4</b>	<b>3.4</b>



②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	1.98	2.25	2.35
幼稚園	1.98	2.25	2.18
養護	1.98	1.86	2.31
小学校	1.98	2.25	2.05
全体平均	<b>1.98</b>	<b>2.15</b>	<b>2.22</b>



## ◆ 2年次前期

アンケート集計結果より 13 項目の全体平均は、4 点満点中 3.5 点であった。

最も高い評価項目は、5 項目あり、④「この授業で学ぶ内容の意義や必要性を十分に理解できましたか」、⑥「この授業がシラバスに沿って進められていたと思いますか」、⑦「実際の授業が、シラバスに書かれている到達目標に達することを目指した内容になっていたと思いますか」、⑪「教員の説明がわかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか」⑫「教科書や補助教材、板書、ICT 機器等が内容を理解することに役立ったと思いますか」であり、3.6 点であった。

最も評価が低い項目は、②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」であり、2.1 点であった。次に低かったのは、⑧「到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」であり、3.2 点であった。その次に低かったのが 2 項目あり、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」、⑬「この授業にわからないことを質問する機会が十分にあったと思いますか」であり、3.3 点であった。

その他の項目は、3.5 点が 2 項目、3. 点が、2 項目であった。

また、②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が、30 分未満 44.1%、30 分以上 60 分未満 33.1%、60 分以上 90 分(120 分)未満 16.1%、90 分(120 分)以上 6.8%であった。共通科目は、30 分未満 60.0%、30 分以上 60 分未満 20.0%、60 分以上 90 分(120 分)未満 13.3%、90 分(120 分)以上 6.7%であった。小学校独自の伸展科目は、30 分未満 61.9%、30 分以上 60 分未満 21.2%、60 分以上 90 分(120 分)未満 11.9%、90 分(120 分)以上 5.1%であった。小学校教科の伸展科目は、30 分未満 0%、30 分以上 60 分未満 100%、60 分以上 90 分(120 分)未満 0%、90 分(120 分)以上 0%であった。小学校指導法の伸展科目は、30 分未満 0%、30 分以上 60 分未満 50%、60 分以上 90 分(120 分)未満 50%、90 分(120 分)以上 0%であった。また、保育士、幼稚園、養護の各コースと比較すると、教養科目、伸展科目等、特段の差はない。

②については、各科目を受け持つ教員が、シラバスに記載している、予習・復習の内容を確認して、授業の中で具体的に学生に示していく必要がある。また、2 年生後期学修では、必ず改善することが、卒業後、教職に就いても研修や教材研究に主体的に熱意を持って取り組むことができる人材を育成することにつながるため、重点課題として取り組む必要がある。

⑧については、学生にシラバスを意識させて、毎時間の授業の到達目標を学生に示し、達成できるようなワークシートや振り返りシートの活用を工夫していく。また、演習形式で、アクティブラーニングを意識させ、主体的で対話的な深い学びになるようなグループワークなどを取り入れて、学生にとって楽しい授業と感じる授業を工夫する。

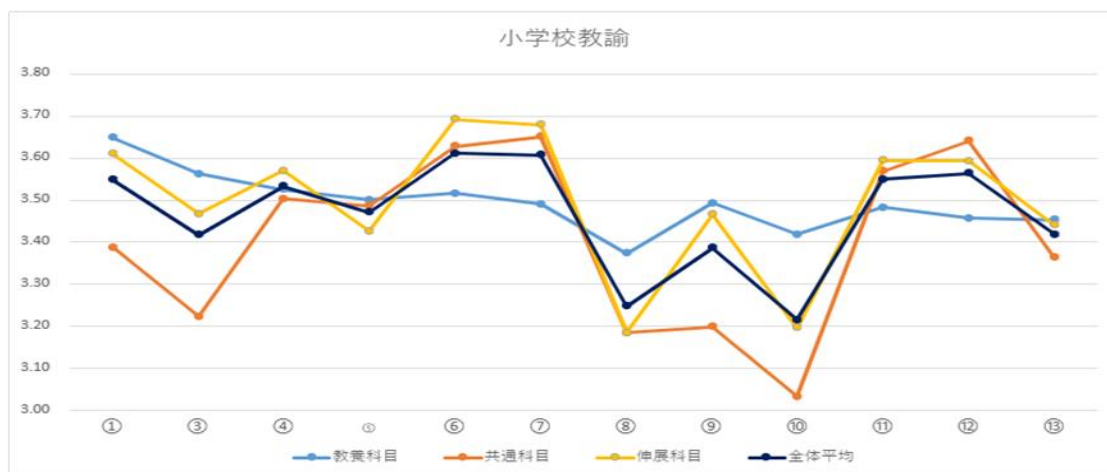
⑩については、授業内容が難しいと感じることがないように、前時授業の振り返りと本時授業に自己評価を取り入れ、スモールステップで個々の理解度を把握しながら授業を進めていくように努める。アクティブラーニングで対話活動やグループワークや発表などを取り入れ、相互の考えの交流を通して、実践的な指導力が身につくようにしていく。尚、アクティブラーニングの実現に向けては次の 3 つの視点で授業改善を行う。授業に見通しを持って粘り強く取り組み、学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」ができているかという視点、自己の考えを広め深める「対話的な学び」ができているかという視点、各教科等の特筆に応じた「見方・考え方」を働かせながら、

知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出だして解決策を考えさせたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現しているかという視点である。

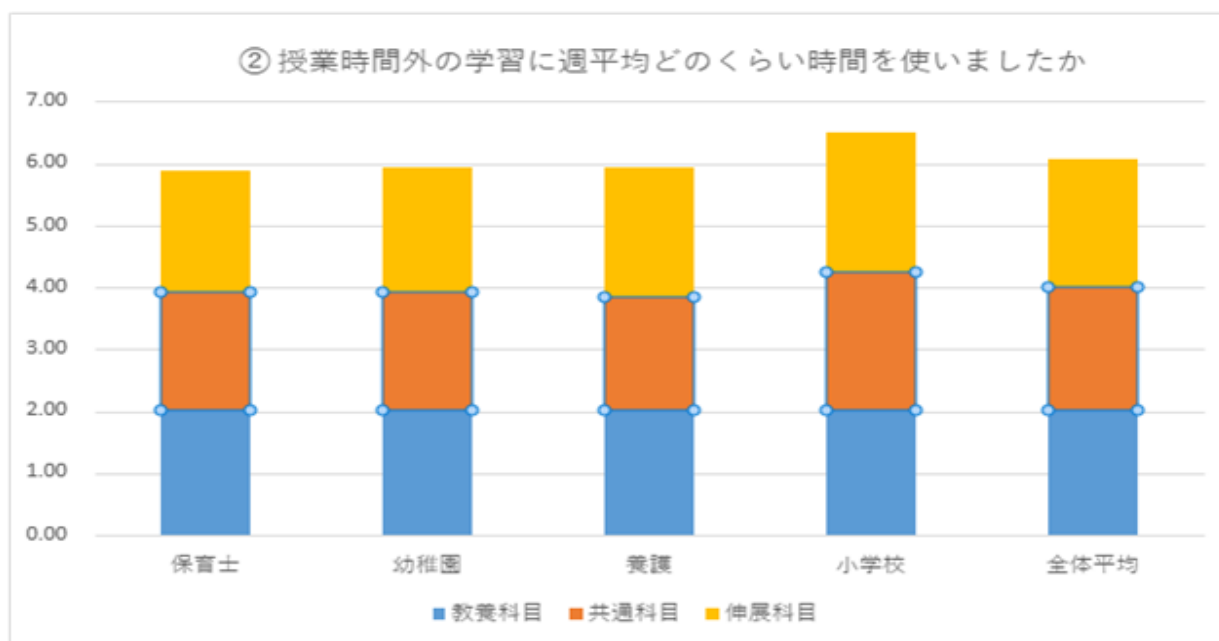
⑬については、各科目を受け持つ教員が、意図的、計画的に、質問の時間を設定することで改善が可能である。

小学校コース 前期 授業評価アンケート集計結果 (全体)

小学校	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.65	3.56	3.52	3.5	3.52	3.49	3.37	3.49	3.42	3.48	3.46	3.45	3.5
共通科目	3.39	3.22	3.5	3.49	3.63	3.65	3.18	3.2	3.03	3.57	3.64	3.36	3.4
伸展科目	3.61	3.47	3.57	3.43	3.69	3.68	3.19	3.47	3.2	3.6	3.59	3.44	3.5
全体平均	3.5	3.4	3.5	3.5	3.6	3.6	3.2	3.4	3.2	3.5	3.6	3.4	3.5



②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	2.02	1.91	1.96
幼稚園	2.02	1.91	1.99
養護	2.02	1.83	2.07
小学校	2.02	2.23	2.25
全体平均	2.02	1.97	2.07



## ◆ 2年次後期

アンケート集計結果より 13 項目の全体平均は、4 点満点中 3.7 点であった。

最も高い評価項目は、⑨「授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」3.8 点、⑩「この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」3.8 点、⑪「教員の説明がわかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか」3.8 点である。

最も評価が低い項目は、②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」であり、2.2 点であった。次に低かったのは、①「この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」3.3 点であった。

また、最も評価が低い②「授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、教養科目が、30 分未満 62.1%、30 分以上 60 分未満 12.1%、60 分以上 90 分(120 分)未満 10.6%、90 分(120 分)以上 15.2%であった。共通科目は、30 分未満 10.0%、30 分以上 60 分未満 20.0%、60 分以上 90 分(120 分)未満 30.0%、90 分(120 分)以上 40.0%であった。小学校の伸展科目(指導法)は、30 分未満 40.0%、30 分以上 60 分未満 40.0%、60 分以上 90 分(120 分)未満 20.0%、90 分(120 分)以上 0%であった。保育士、幼稚園、養護の各コースと比較すると、教養科目、共通科目は、特段の差はなかった。伸展科目の全体平均は、3.8 点であり、他のコースより 0.4 点高かった。

①については、2 年生後期になり、卒業を控え、就職活動等で欠席する日が増えているために自己評価が低くなっている。

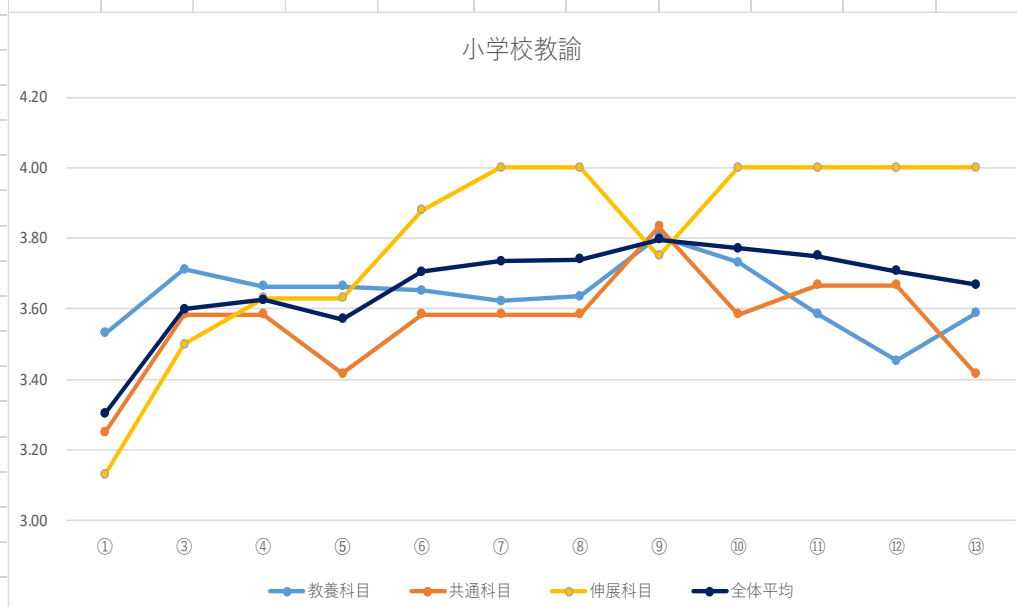
②については、卒業後、教職に就いても研修や教材研究に主体的に熱意を持って取り組むことができる人材を育成することにつながるため、今後も重点課題として取り組む必要がある。学修は、授業だけでなく予習—授業—復習といった、一連のサイクルを通じて深められるものであり、生涯にわたって効果的に学び続けていく上では、そうしたサイクルで教材研究等自己研鑽し実践的指導力を身に付けていく必要がある。授業外でも学修に取り組む中で、自律性や学修スキルが向上する。大学教育でも、事前準備や事後の学修も含めて単位認定を行うようになっており(中央教育審議会、2012)、授業だけでなく、予習や復習などの授業外学修を通じて、学修スキルを育成していくことが目指されている。次回の授業に向けて予習を行うことは、授業での理解を深める上で非常に重要であり、授業内容と関連する知識が事前に活性化されることで、既有知識と新たな情報を関連づけ、疑問点を把握しながら授業に参加できるようになることが可能である。継続的な取り組みを行う。

本学では、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材育成は、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要であると考え、取り組んできている。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換を行っていて、学生の主体的な学修を促す質の高い教育を目指している。尚、アクティブラーニングの実現に向けては次の 3 つの視点で授業改善を行っている。授業に見通しを持って粘り強く取り組み、学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」ができていくかという視点、自己の考えを広

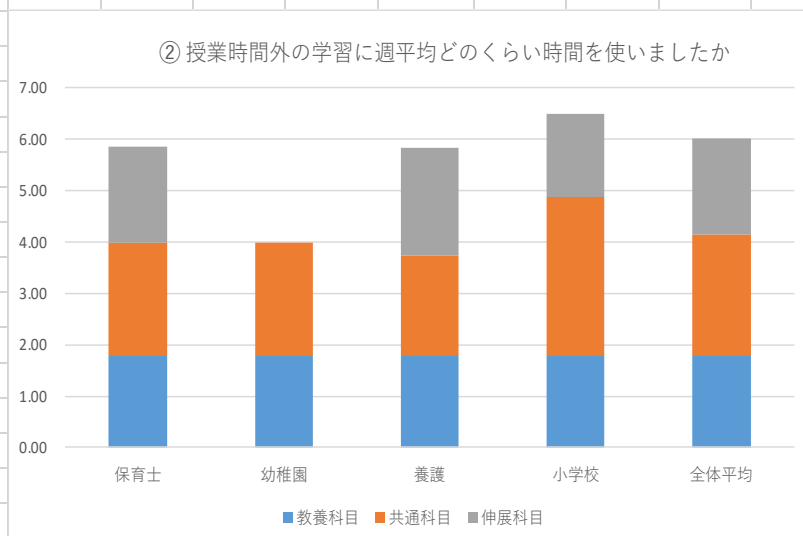
め深める「対話的な学び」ができているかという視点、各教科等の特筆に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出だして解決策を考えさせたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現しているかという視点である。

## 小学校コース 2年後期 授業評価アンケート集計結果（全体）

	①	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	全項目
教養科目	3.53	3.71	3.66	3.66	3.65	3.62	3.64	3.81	3.73	3.59	3.45	3.59	3.6
共通科目	3.25	3.58	3.58	3.42	3.58	3.58	3.58	3.83	3.58	3.67	3.67	3.42	3.6
伸展科目	3.13	3.50	3.63	3.63	3.88	4.00	4.00	3.75	4.00	4.00	4.00	4.00	3.8
全体平均	<b>3.3</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>	<b>3.7</b>	<b>3.7</b>	<b>3.7</b>	<b>3.8</b>	<b>3.8</b>	<b>3.8</b>	<b>3.7</b>	<b>3.7</b>	<b>3.7</b>



②時間外	教養科目	共通科目	伸展科目
保育士	1.79	2.19	1.88
幼稚園	1.79	2.19	
養護	1.79	1.95	2.10
小学校	1.79	3.08	1.63
全体平均	<b>1.79</b>	<b>2.35</b>	<b>1.87</b>



## 教養科目 授業評価アンケート結果からの成果と課題

### ◆1年次前期

アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.5 点であった。

最も高い評価項目は、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」、「③この授業にどのくらい主体的・積極的に取り組むことができましたか」の 3.6 点であった。これに対し、評価の低い項目は、「⑩この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」の 3.3 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、30 分未満 34.7%、30 分以上 60 分未満 21.2%、60 分以上 90 分（120 分）未満 24.6%、90 分（120 分）以上 19.5%であった。

評価の低い「⑩この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」については、個別対応の時間を増やし、学生の反応を観察するとともに授業の手段を工夫し、教育サービスの質を更に向上させる必要がある。「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、授業の最後に、本時の授業のまとめと、次回の予習について提示し、次回の授業の初めに予習・復習に関する小試験や課題を設けるなど、予習復習をすることで知識が定着していくことを実感できるように考慮することが重要であろうと考える。また、補助教材や ICT 機器の改善、授業時間外の学習の意義や方法についても積極的に伝え、学習意欲を高めることが必要であろう。

### ◆1年次後期

アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.4 点であった。

最も高い評価項目は、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」の 3.7 点であり、次に「③この授業にどのくらい主体的・積極的に取り組むことができましたか」と「⑨授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」の 3.5 点であった。評価の低い項目は、2 項目あり、「⑪教員の説明が、わかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか」と「⑬この授業にわからないことを質問する機会が十分にあったと思いますか」の 3.2 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、30 分未満 50.0%、30 分以上 60 分未満 27.2%、60 分以上 90 分（120 分）未満 11.1%、90 分（120 分）以上 11.7%であった。

評価の低い「⑪教員の説明が、わかりやすく、授業の理解を深めることに役立ったと思いますか」については、アクティブラーニングを活用し、グループワークや対話を通じて積極的かつ意欲的な参加を促す授業内容を検討する。また、説明がわかりにくい場合は、作業時間やスピードに合わせて個別やグループでの説明を行うことを検討する。「⑬この授業にわからないことを質問する機会が十分にあったと思いますか」については、課題解決型の授業で対話を重視し、学生がいつでも質問できる状況を整えることで、学習成果と達成感の向上につなげる。そして、学生に達成感を味わう場面や振り返る場面を提供し、学習意欲や成果につなげる取り組みを行う。「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、自発的な予習・復習を促すだけでなく、



頻繁に課題を課すことで学習時間の増加を図ることを検討する。さらに、スマートフォンを活用した学習方法を提案することで、学生の学習につながる成果が期待される。

#### ◆ 2年次前期

アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.5 点であった。

最も高い評価項目は、「①この授業にどのくらいの割合で出席しましたか」の 3.7 点であった。評価の低い項目は、「⑧ 到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」の 3.3 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、30 分未満 44.1%、30 分以上 60 分未満 33.1%、60 分以上 90 分（120 分）未満 16.1%、90 分（120 分）以上 6.8%であった。

評価の低い「⑧ 到達目標にどのくらい近づくこと、あるいは到達することができたと思いますか」については、学生が到達目標や授業の意義・必要性を理解できていないようなので、第一回目の授業で目標を明確にする取り組みが必要である。また、学生にとって授業の内容が難しかったことが考えられるため、授業内容を学生の身近な内容に改善し、学習意欲を高めていく。「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、授業内容のノートをまとめたり、次回の授業内容を事前に伝え調べ学習をさせたりすることで教員が一方的に伝えるのではなく、学生自身の学ぶ意欲を育てていく必要があると考えられる。

#### ◆ 2年次後期

アンケート集計結果より 12 項目の全体平均は、4 点満点中 3.6 点であった。

最も高い評価項目は、「⑨授業のペースに追いつけないと感じることがどのくらいありましたか」の 3.8 点であり、次に「③この授業にどのくらい主体的・積極的に取り組むことができましたか」と「⑩この授業で学ぶ内容の難しさについてどのように感じましたか」の 3.7 点であった。評価の低い項目は、「⑫ 教科書や補助教材、板書、ICT 機器等が内容を理解することに役立ったと思いますか」の 3.4 点であった。

また、「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、30 分未満 62.1%、30 分以上 60 分未満 12.1%、60 分以上 90 分（120 分）未満 10.6%、90 分（120 分）以上 15.2%であった。

評価の低い「⑫ 教科書や補助教材、板書、ICT 機器等が内容を理解することに役立ったと思いますか」については、説明を口頭で行うだけでなく、図や絵を用いながら伝えることで、学生の理解につながるよう工夫していきたい。また、ICT 機器の操作に関する学生の経験不足等もあるため、大学全体の情報機器や通信環境の整備も必要になると考えられる。「②授業時間外の学習に週平均どのくらい時間を使いましたか」については、次回の授業内容について、事前に調査・発表を行い、事前準備の必要性を強調する取り組みをする。さらに、事前に調べた内容から学生が適切なルールを提案・選択することで主体的に取り組めるよう促していく。